

[第639回 大阪放送番組審議会議事録]

1. 開催日時 令和3年7月15日(木) 午後2時00分～3時00分

2. 開催場所 産経新聞大阪本社8階 802会議室

3. 委員の出欠 委員の総数 6名

出席の総数 6名

委員の氏名 成瀬 國晴 たつみ 都志
鎌田 雅子 萩原 章男
内田 透
河内 厚郎 (書面参加)

放送事業者側出席者の氏名

吉田 禎宏 安東 義隆
赤松 加枝子 和田 麻実子

4. 議題

1) 番組審議 『ぐるぐるラジオ』

2) その他

5. 議 事 の 概 要

議題 1) 『ぐるぐるラジオ』について、番組の企画意図と内容を説明し、番組を聴取した後審議に入った。

6. 審 議 内 容

社 側 『ぐるぐるラジオ』は木曜日の深夜3時から放送している番組です。タイトル「ぐるぐる」には、番組で紹介する「場所・人・モノ」にリスナーのみなさんを巻き込みたい、という想いを込めています。ラジコタイムフリー(放送時間外で聴取するリスナー)も念頭に、関西以外の話題も多く取り上げつつ、深夜の放送ですがゆったり過ぎないテンポの番組を作っています。

※審議内容は2021年6月10日(木)放送分です。

※出演：和田麻実子アナウンサー

ゲスト：JTB ふるさと納税ナビゲーター・梶原万祐子さん

委 員 「こんばんわだ～」のひと声で始まる、和田麻実子アナウンサーの深夜番組。コロナ禍において、駅の売店員の心遣いに感動した話題を、はじめに披露する。「ふるさとさんぽ」では、兵庫県丹波篠山市の丹波篠山牛を取り上げ紹介。生産者の声を聞き、牛に対するこだわりから郷土愛に至るまで伝えて、ふるさと納税の返礼品のPRには十分な内容であった。代々、牛を育て牛舎と精肉店を経営する東門アキヨシさんの「おいしく食べていただくことが牛への供養になる」という言葉が印象的だった。

「麻実コンパス」では、純温泉協会代表の山口タカシさんに純温泉の定義を聞き、また「目をつぶって温泉に入ってほしい、そうすると独特の香り、つるつる感、気泡が体の表面につく感触を味わえる」とアドバイスされる。

「おかんDJ漫遊記」は、MBS ラジオ・西村愛さんにインタビューし、DJを目指したいきさつやDJになってからの、音楽イベントを企画したいという夢を語ってもらう。和田アナウンサー共々、子育て中でもあり、話は尽きない。「できれば笑顔で」という子供への接し方や、イライラした時には即興の歌で必要なことを伝える、もし伝わらなくても自分の気持ちが和む、など興味深い内容だった。60分の番組なので、盛りだくさんで、なおかつバランスのとれた構成となっている。

委員 和田アナウンサーの安定した聞き取りやすい声と、落ち着いた雰囲気やさわやかで好感が持てる番組。気になった点としては、以下にあたる。

「ふるさとさんぽ」では、農家の新たな取り組みや苦労話も面白いが、リスナーとしては商品の美味しさや値段が気になる所である。商品を取り寄せてのスタジオ試食は必須。そうすれば、インタビューの内容が活きてくる。「麻実コンパス」では、自分の地元の話なので楽しく聞くことができた。純温泉協会が独自に基準を決めて「純温泉」を決めているので、定義から外れた温泉について、フォローやツッコミがあってもよかった。全国の純温泉の場所や数など情報が物足りない部分もあった。「おかんDJ漫遊記」では、子育て番組では無いのに急に「おかんDJ」の肩書がつく事に違和感がある。ゲスト・西村愛アナウンサーの震災の番組から音楽イベントに繋がった話など、深堀して欲しかったが、子育ての話に変わってしまった。また、色々な事情の人がいる中で「子育て」や「母親」というワードを使う事が気になる。「おかん」の肩書が無くとも和田アナウンサー自身が魅力的なので、和田アナウンサーの個性で番組をやっていけばいいと思う。

委員 リスナーの年齢層や職業で番組のカラーを考慮する必要がある。全体の構成を見ると、どこに焦点を絞った番組か分かり辛い。和田さんの声は心地よくて大好きだが、興味の無い話題になると、つまらなく感じる聴取層がいるだろう。コーナーそれぞれの意見としては、丹波篠山牛が他の肉とどう違うのか知りたかった。温泉の話題に関して、女性が欲しいのは肌がツルツルになる等の情報なので、純温泉の定義には興味が薄く、山口さんとは価値観が違うなどと思った。最後の「おかんDJ漫遊記」に関しては和田アナウンサーが一番元気に、ゲストとのフィーリングが合って話が弾んでいた。子育てが終わった世代が聞いて気持ちいいコーナーだった。ただ、この3種類のコーナーがどの層にフォーカスを当てているかわからなかった。ラジコでの聴取を念頭に置いているのであれば、その場所を知らない人がいる事を想定して、具体的な場所の説明が必要だと感じた。

委員 内容が詰まっていたので、1時間が短いと感じた。しかし各コーナーでリスナーを巻き込む余地はまだある。個性あるゲストの取り組みや良さを

引き出し切れていない。

まず、最初の「ふるさとさんぽ」に関して、通販番組と割り切って丹波篠山牛の肉の良さを徹底的に伝える、ふるさと納税を増やすという気持ちでコーナーを進行した方が良い。「麻実コンパス」について、「純温泉」という単語を初めて聞くリスナーが圧倒的に多いのでは。自分でネット検索をしたが、純温泉についての全体像が伝わらないまま終わった事が残念。純温泉の定義にフォーカスするよりも、純温泉そのものの価値を伝える事が出来たら良いと思った。

「おかん DJ 漫遊記」はこの番組で子育て話をするのは少し違うと感じた。ゲストの西村さんが防災・音楽のイベントの取り組みをされていることが前に出てきているので、その辺りの話を聞きたかった。「おかん DJ」とうタイトルに捉われず、MBS ラジオリスナーを増やす位の勢いで、懐深くゲストの話聞き出せると面白いと思う。全体を通してゲスト3名の取り組みを紹介しきれなかった事が残念だった。

委員

各コーナーのテーマがバラバラで心配していたが、実際は全体でまとまっていてそれぞれの楽しさは伝わった。和田さんの軽快な語り口はテンポが良く聞きやすかった。「ふるさとさんぽ」のコーナーは東門さんの牛に対する情熱が伝わってきて、丹波篠山の情景が頭に浮かんだ。ただ、肝心の肉の味が知りたかった。純温泉の話は、個人的には景観を含めても楽しみたいので共感できないが、独自の考え方には引き込まれるものがあった。山口さんから「純温泉には目を瞑って入ってください。」と言われた時、「良い意味で面倒くさい入り方だけど、素晴らしい」と和田アナウンサーの返しが面白かった。山口さんがオススメする温泉情報などあれば、より良かった。西村さんとのトークは同世代の子供がいるので盛り上がりしており、特に子供に伝えたい内容を歌にするなどの子育て方が興味深かった。ただし、西村さんの防災の取り組み内容を知れない事がストレスだった。

委員

コロナ禍で皆さんが孤立している事を考えた上での「場所・人・モノ」を巻き込んでいくコンセプトに共感した。オープニングでの話は“気働き”を和田アナウンサーが感性で感じとり、伝えているという点が非常に良かった。各コーナーに関して、今回は近畿エリアに固まってしまったことが残念。「ふるさとさんぽ」は関西人に馴染みがある丹波篠山の事だったので、関西以外での地方色が出た方が面白いと思った。その後に流れた曲がコーナーと繋が

っていて、その気配りが面白かった。「麻実コンパス」では純温泉協会独自の考え方が良いと思ったが、最後に「詳細はYouTubeでどうぞ」という紹介の仕方についてはYouTubeの見方がわからない高齢リスナーに対して気遣いが必要。「おかんDJ漫遊記」はタイトルに“漫”がついているので楽しい話が良い。地方アナウンサーが話す方言や、地方の子育て術など、その地域ならではの話が出てきたら面白いと思った。また、間口を広げて、お父さんの子育て話などがあった方が良いのでは。

社 側 貴重なご意見、ありがとうございました。

以上

7. 審議会の答申又は改善意見に対してとった措置および年月日

な し

8. 審議会の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表内容・方法及び年月日

- ・「番組審議会だより」 (第639回大阪放送番組審議会議事録の要約)
「愛してラジオ大阪」 内で放送
放送日 令和3年8月25日(水) 23時20分～23時30分
- ・「番組審議会だより」 (第639回大阪放送番組審議会議事録)
ラジオ大阪ホームページ (<http://www.obc1314.co.jp>) に掲載
- ・ 番組審議会の議事録の原本は事務局立ち会いのもと閲覧に応じる。